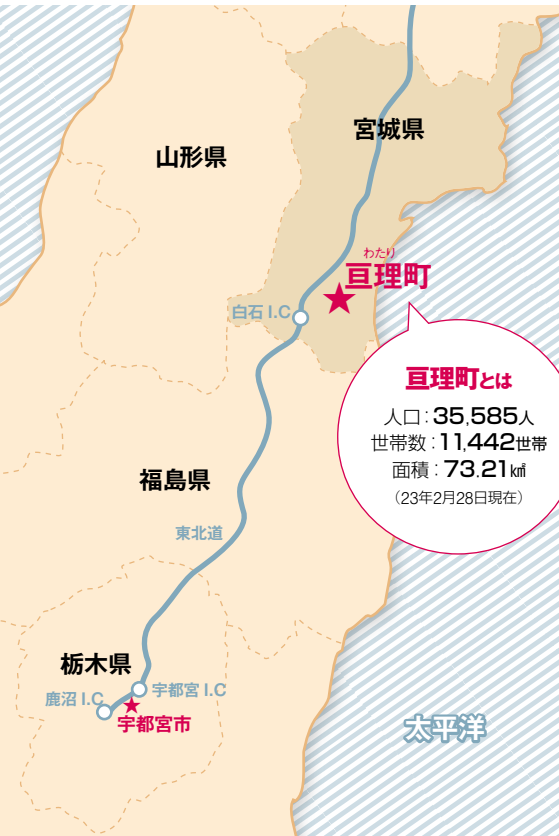




◎亶理町の被害、避難状況 ※亶理町総務課発表(5月3日現在)
●死者 248人 ●行方不明者 22人 ●負傷者 44人
●避難者数 1,260人
(亶理小学校240人、亶理中学校213人、亶理高校453人、
吉田小学校162人、達隈小学校192人)

◎津波の状況 ※日本気象協会発表(4月22日現在)
●津波高 7.7m ●浸水面積 35km² ●浸水率 47.9%

宇都宮餃子会の各団体合同で実施されました。目指す避難所は宮城県亶理町亶理小学校の体育館です。
当日は4団体のメンバーやその家族らが、先発の第1班と後発の第2班に分かれ、合わせて25人、車9台で参加しました。メニューは炊き込みごはん、スープ、そして宇都宮名物の餃子。約1000人分を用意し、同小学校のほか亶理中学校の避難所にも届けました。
午前8時40分、参加者は上野勝弘宇都

宮法人会青年部会長(当所青年部顧問・理事)が経営する上陽工業(株)の本社に集合しました。当所青年部の金柿説生会長(有石川印刷所社長)や上野さんらが先頭に立って、ワゴン車や乗用車、宇都宮餃子会のイベント車などに食材や支援物資を積み込みます。
ワゴン車の車体には前面に「救援物資輸送車両」、側面に「栃木の食材を食べて一緒に頑張っべ」の文字。地震や原発事故の風評被害で少なからず打撃を被った栃木

県も、東北地方の被災地とともに元気になるという願いが込められています。
支援物資はカップラーメンやレトルト食品、缶詰、長靴、カッパなど。今後とも長引きそうな避難生活に役立つと思われる物品をそろえました。当所はじめ参加団体のネットワークを活用して現地の要望を聞き取り、本場に必要物を必要場所に届けることができるようになりました。
午前9時に出発。車列は東北自動車道をひたすら北上した後、宮城県の白石



1 宇都宮餃子会所有のイベント車
2 炊き出し用のテントを設置するメンバー
3 配膳するわかれスープの準備。テントには「宇都宮市民ネットワーク会議」「宇都宮商工会議所青年部」「宇都宮法人会青年部会」の看板とともに「栃木の食材を食べて一緒に頑張っべ」メッセージが掲げられた
4 手際よく餃子を焼いていく宇都宮餃子会の方々

当所では東日本大震災後、いち早く北村光弘会頭のお見舞いメッセージの発信や、被災した会員向けに特別相談窓口を設置しました。さらにメルマガジンの号外を発行するとともに、被害状況および関係機関への要望を収集。国県市が行っている支援情報をまとめた「震災復旧復興支援特設ページ」を、ホームページ内に開設しました。
また、事業の継続と復興のための最新情報を集めた「震災復興支援ガイド」を

緊急に作成しました。そのほか、緊急アンケート調査や緊急経営相談会などにより、会員に対する万全のサポートを行っています。
同時に被災地を直接支援する体制も整えました。義援金口座を開設し、事務所受付には義援金箱を設置しました。中でも当所青年部は、宇都宮法人会青年部会、宇都宮青年会議所など他団体と協力し合って、震災直後から宇都宮市内で街頭募金活動を展開。110万円余りを集めたのははじめ、3月から5月にかけて、ほぼ毎週末に各地の被災地に支援物資を搬送し、宇都宮餃子会などの協力も得ながら炊き出しボランティア等に取り組みました。
特に炊き出しボランティアは、宮城県山元町、福島県いわき市、宮城県亶理町な

ど広範囲におよび、現地の避難住民から大いに喜ばれました。この際に大きく役立ったのは、商工会議所が全国に持ついるネットワークでした。事前に現地の商工会議所関係者と連絡を取り、どこで炊き出しを行ったら最も有効かなどを調整し、ピンポイントでの支援が可能になったのです。
当所青年部はじめ、宇都宮の若手経営者らが力を合わせて展開している被災地支援活動。その動きは確実に実を結んでいます。その中から5月1日(日)に行われた炊き出しボランティアの様子を報告します。
5月1日(日) 25人、車9台が参加
この日の炊き出しは、当所青年部、宇都宮法人会青年部会、宇都宮青年会議所、

当所の東日本大震災への対応



今回の炊き出しに参加したメンバー

これまで経験のない大被害をもたらした東日本大震災。3カ月を経過した今も、被災地は全面復興までにはまだまだ遠い状況です。当所では、この未曾有の大災害を乗り越えるため、経済団体の立場から被災者支援のさまざまな活動に取り組んでいます。

東日本大震災の被災地を支援する青年部

他団体とも協力し「オール宇都宮」で

特集1 青年部炊き出し in 宮城県亶理町

支援物資輸送・炊き出し支援の状況	
●4/3(日)	宮城県泉仙沼市 (青果市場ほか)
●4/10(日)	宮城県山元町 (山元町体育文化センター)
●4/17(日)	福島県いわき市 (いわき南の森スポーツパーク)
●4/24(日)	福島県いわき市 (いわき南の森スポーツパーク)
●5/1(日)	宮城県亶理町 (亶理小学校)



いわき市での炊き出し(4月17日)

●午前10時	那須高原SAで小休止 やや肌寒い。 この付近の高速道路の 気温表示は17℃
●午前11時	安達太良SAで小休止 車は多めだが大きな渋滞はない
●午前11時50分	国見SA手前から渋滞
●午後0時20分	白石ICで高速道路を降りる 同IC手前から渋滞し、降りてからも 国道4号の渋滞続く
●午後1時	国道4号沿いの飲食店で昼食
●午後1時40分	国道4号から県道14号を 角田市、亶理町方面へ
●午後2時 亶理町へ入る	
●午後2時10分	避難所の亶理小学校に到着 直ちにテント設置、 炊き出しの準備

炊き出しの
メイン会場となった
亶理小学校体育館



救援物資を車に載せるメンバー



「栃木の食材を食べて一緒に頑張っべ」のメッセージを付けた救援物資輸送車両を運転する金柿さん



出発前に善林さんから説明を受けるメンバー



当所青年部
金柿説生 会長
(栃石川印刷所社長)

生きた全国のネットワーク

被災地支援には直ちに対応しました。3月11日(金)の地震の後、14日(月)には支援物資が事務所

に届き始め、義援金の口座も開設されました。19(土)、20(日)、27日(日)には当所青年部、宇都宮法人会青年部会、宇都宮青年会議所の3団体合同で街頭募金を行い、物資の発送も始めました。私自身、那須水害でのボランティアの経験から初動の重要性を痛感しており、その経験も生きたと思います。

全国に展開する商工会議所のネットワークはさすがです。現地のメンバーと連絡を取り合い正確な情報を集めることで、今回の炊き出し支援のように、どこに何が必要か、ピンポイントで支援を行うことが可能になりました。そのおかげで、東北地方だけでなく茨城からの支援要請にも応えることができました。

また、宇都宮では、当所青年部ばかりでなく、宇都宮法人会青年部会、宇都宮青年会議所など各団体が力を合わせ、得意分野を生かして取り組んでいるので、特に力になっていると思います。さらに宇都宮餃子会も快く協力してくれました。その意味で「宇都宮は一つ」という意識です。



(社)宇都宮法人会青年部会
上野勝弘 会長
(上陽工業株式会社、当所青年部顧問・理事)

「オール宇都宮」の意識で

法人会の親会が物資集めを担当し、青年部会は実働部隊です。私たちと宇都宮商工会議所青年部、宇都宮青年会議所の3団体の連携

が機能して、効果が出ていると思います。みんな同世代で普段から付き合いのある仲間。その意味で「オール宇都宮」ですね。

毎週どこかで炊き出しに取り組んできましたが、避難所の状況も変化しているように見えます。地元のルール、現実に合わせていくことが重要です。今後も支援は続けますが、形が変わってくるかもしれません。



(協)宇都宮餃子会
坂入静夫 副理事長
(中国飯店 店主)

喜んでもらえた宇都宮餃子

宇都宮餃子会は震災後、宇都宮市内をはじめ、那須町やいわき市などの避難所に出かけて、餃子を振る舞ってきました。組合活動以外に個店で支援をされている会員もいます。炊き出しを行うための調整は大変な仕事ですので、今回のお話は大変ありがたかったです。

イベントには慣れているので力になればと思います。皆さん宇都宮餃子をとても喜んでくれるので本当にうれしいですね。今後也能るかぎりの活動を続けていきたいと思っています。



巨理小学校体育館に避難されている方々へのあいさつ。
左から飯村さん、善林さん、岩瀬さん、上野さん

「ありがとう」の声に感激

避難所では、今回、地元でのコーディネートを行った現地の青年会議所メンバーが出迎えてくれ、宇都宮のチームとがっちり握

国道4号に入った付近で若干の渋滞に巻き込まれたものの、ほぼ予定通りの午後2時過ぎ、避難所の巨理小学校体育館前に到着。この周辺は高台になっていて、津波による被害は全くありません。地震の揺れによる被害も少なかったようです。ただ、近くの町役場は古い建物だったため倒壊の危険があるようで、仮設のプレハブ庁舎で業務を行っていました。津波で大被害を受けた荒浜地区などは、ここから5キロほど下ったところにあります。



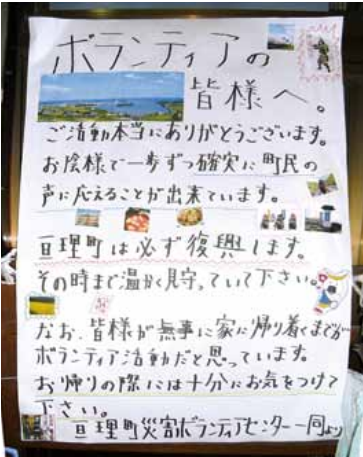
巨理中学校体育館に避難されている方々へのあいさつ。
右から金柿さん、北村さん

手。連携の強さを伺わせました。ほどなく着いた第2班も合流して、手際良くテントの設営が進みます。テントには「宇都宮市民ネットワーク会議」の横幕が掲げられ、宇都宮の若手経営者が「オール宇都宮」で取り組んでいるという心意気が表れています。

宇都宮餃子会のイベント車からも餃子を焼く鉄板やコンロなどが運び出され、準備が整いました。早速、宇都宮餃子会のメンバーが餃子を焼き始め、芳ばしいにおいがあたりに立ち込めます。避難所に入ったり人たちも物珍しそうに眺めながら通っています。

午後5時には食事が配られ始めました。避難した人たちも当番制で食事係を担当しているとのこと。そこに東京などから来たボランティアの人たちも加わって、和やかな雰囲気配膳が進みます。「たくさん食べてくださいね」とわがチームのスタッフ。「いやあ、おいしそうだ」「こんなにもらつていいのかい」「いろいろがあつていいねえ」と避難所で暮らす人たち。食事の受け渡しでの会話が弾みます。

食べ終わった高齢の女性は「とても



ボランティアの方々へのお礼

餃子の数にはまだゆとりがあったため、巨理小学校近くでお風呂を設営していた自衛隊の人たちに差し入れ。兵庫県から来ているという部隊で、餃子を手渡すと「ありがとうございます」ととても感謝されました。

また、近所の公共施設に設けられたボランティアセンターには、ゴールデンウィークを利用して駆けつけた大勢のボランティアが詰めていました。その日の作業をすませてミーティング中。餃子が運び込まれると「やったー」と大歓声がわき上がりました。ボランティアの人たちは、施設の庭にテントを張ったり、車の中で宿泊しながら奮闘しています。中には宇都宮から来たという男性も。軽ワゴン車の中で寝泊まりして4日目とことで「がれきの撤去はなかなか進みません。もう何日かがんばりま



餃子を焼くテントの前には行列が

おいしかったです。ありがとうございました」。また、中年の女性からは「おいしかったです。元気が出ました」と、口々に丁寧なお礼の言葉が述べられます。子どもたちも「おいしい」「餃子大好き」とうれしそう。宇都宮のスタッフから「やつてよかった」の笑顔がこぼれました。

食事が一通りすんだころ、テントに控えていた上野さんらが避難所の役員さんに声をかけられました。避難している皆さんに紹介し、お礼を述べたいとのこと。体育館の中に招き入れられ、役員さんが「宇都宮からわざわざやってきてくれました。餃子はおいしかったですか」と問いかけると、大きな拍手がわき上がりました。あいさつした宇都宮餃子会の岩瀬さんも「喜んでいただき、私たちにも励みになりました」と感激の面持ちでした。

巨理中学校の避難所には、金柿さんらが食事を持参。大歓迎を受けました。配



自衛隊の人たちに餃子を配る平塚さん

す」と話していました。

わがチームは午後6時半過ぎに巨理小学校を撤収し、宇都宮に帰りついたのは午後10時半近くになりました。参加者は翌日には仕事を控えていましたが、皆、喜んでもらえたことに満足そうな表情でした。

午後4時10分

食事を配る準備が整う



出来上がったわかめスープを運ぶ上野さん

午後4時40分

巨理小学校避難所での食事の配布を開始



炊き込みごはん、焼餃子、わかめスープを配膳

午後5時

巨理中学校避難所に食事を届ける



巨理中学校で配膳の準備。
右から金柿さん阿部さん

午後5時30分

食事の配布はほぼ終了
餃子の数にゆとりがあったので、自衛隊、ボランティアセンターに差し入れ



ボランティアセンターに餃子を届ける
渡部さん(右端)

午後6時40分

巨理小学校を撤収

午後7時10分

白石ICから東北自動車道へ

午後8時20分

安達太良ICで小休止
東北自動車道渋滞の交通情報が出ていたがそれほど混まず順調

午後10時15分

上陽工業(株)着

この日届けたもの

食事は餃子炊き込みご飯、わかめスープ各10000人分
支援物資はカップラーメン、レトルト食品、缶詰、長靴、カッパなど